西成瀬歴史散歩
～ミニ～

Vol.7　令和５年　10 月発行
西成瀬地区交流センター運営協議会
〒019-0711　増田町荻袋字真当 72
TEL：45-2657　FAX：45-4092

今回のテーマ：
遠藤熊吉と受け継がれる「ことば先生」

明治から昭和にかけて、いわゆる「ズーズー弁」と言われる強いなまりの方言が話ことばの主流だった時代のさなか、秋田県の小さな村が、一躍「標準語の村」として注目されるようになりました。方言と寄り添いながら標準語教育を実践し、西成瀬に根付かせたその人こそ、**ことば先生・遠藤熊吉**です。今回は、遠藤熊吉翁の功績と後世まで続いたことば教育の一端をご紹介いたします。

◆ ポケットから●●…ユニークな標準語教育

遠藤熊吉（えんどうくまきち）先生は明治7年（1874）、西成瀬村安養寺（あんようじ）に生まれました。20歳で上京し熱心に国語を学んだのち、西成瀬村に戻ってからは教師となって長きにわたり標準語の教育に取り組みました。

例えば、拾った石をポケットに入れて持ち歩き、子どもの前で取り出して見せ「これは何ですか？」と尋（たず）ねます。「イシ」とうまく発音できなかった子には、くちびるの両端を指で伸ばして正しく発音する時の口（くち）の形を教え、時には口の中に指を入れて舌の位置を直された…というエピソードが語り継がれています。また、子ども同士で昨日の出来事などについて話をする「対話（たいわ）」形式の練習も重視されました。相手の話を「聞き取る」ということも大事にしていたのです。

熊吉先生は学校で標準語を徹底させる一方、『家では方言でも良い』と教えました。すると、子どもたちはごく自然に相手や場面で方言と標準語を使い分けることができるようになり、大人になって東京や各地で就職した際も言葉の壁に悩むことが無かったのだとか。

当時、他の地方でも行われていた標準語教育といえば、方言を悪い言葉とみなして矯正（きょうせい）しようとするものだったのに対し、こうした方言を否定しない姿勢があったからこそ、熊吉先生の標準語教育は広く地域に受け入れられ、平成14年（2002）に西成瀬小学校が閉校するまでの 100 年以上も継承されてきたのです。

※遠藤熊吉翁については当センターのホームページでより詳しく紹介しています。
インターネットから「標準語村」で検索してみて下さい！

標準語村

ちょっとこぼれ話①
熊吉先生がことばに興味を持ったきっかけは、高等小学校の時に音楽を教わった、東京出身の女性教師が話す言葉や発音の美しさに心を打たれたからだそうです。

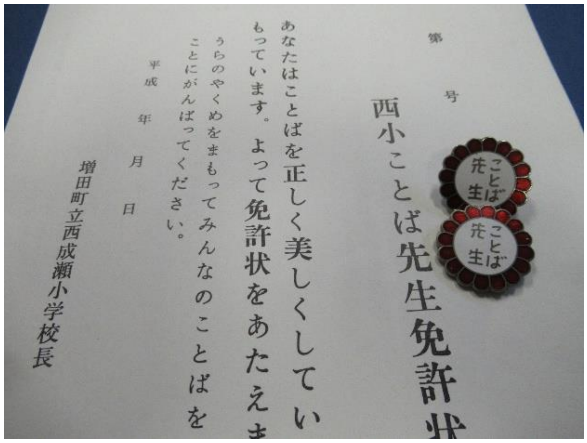
裏へ続く

◆ めざせ『ことば先生』！あこがれのバッジを夢見て

熊吉先生の亡きあと、標準語教育を絶やさぬようにと西成瀬小学校の先生たちによる手探りの取り組みと研究が始まりました。その中で生まれたのが、昭和42年（1967）に制定された『ことば先生制度』です。

ことば先生をつとめるのは、主に上級生のお兄さん・お姉さん方で、定期的に行われていた発音練習会（発声や発音、口の開き方などの基本練習）やことば勉強会（話し方や表現方法を学ぶ）では、全校生徒の前に立って本物の先生のように指導をしました。

しかし、ことば先生になるためには、厳しい『ことば検定』という試験が立ちはだかります。その内容は、①普段からのことば使い ②校長先生や教頭先生との面接 ③独話（どくわ） ④対話（たいわ） ⑤朗読（ろうどく） ⑥筆記（ひっき）試験 のすべてで合格点をクリアしなければなりませんでした。みんなの前で堂々と話すことば先生は全校生徒のあこがれの的でしたし、ことば先生の証（あかし）であるバッジを付けることを目指して、西小生は日々の生活の中でもことばを磨（みが）いていきました。



←ことば先生免許状とバッジ
免許状の裏面には、以下のことが書かれていました。

「ことば先生のやくめ」
一、いつでも、どこでも、だれにでも、正しく美しいことばで話をし、正しく美しいことばをひろめることにがんばる。
二、「ことば先生」をふやすため、ともだちを応援することにがんばる。
三、あつまって勉強したり、「ことばノート」を書いたりして、自分のことばの力をみがくことに、いつもがんばる。
四、このようにして、西成瀬小学校のみんなのことば、おとうさん、おかあさんたちのことばを、正しく美しくすることにがんばる。
これが西成瀬小学校の、遠藤熊吉先生のときからつづいている伝統です。

ちょっとこぼれ話②
基本的にことば検定は年2回実施され、4年生以上で受験することができました。一度で合格できなくても、先生や友達にもアドバイスをもらいながら、ことば先生バッジをもらえるその日までチャレンジは続いたのです。

◆ 一音を　一語を

センターの前には、[一音（いちおん）を　一語（いちご）を]と刻まれた石碑（せきひ）があります。これは、『一音を教えたら一音を、一語を教えたら一語を生活させよ』という遠藤熊吉先生の教えを顕彰（けんしょう）し、西成瀬小学校の創立80周年記念事業に合わせて昭和39年（1964）に建てられたことばの碑です。

小学校は統合によりなくなってしまいましたが、熊吉先生から受け継いだ「標準語村」としての誇りは今もしっかりと西成瀬で実を結んでいます。

ちょっとこぼれ話③
熊吉先生自身は普段でも方言を使うことはなかったそうですが、ある日自転車で道脇の水路に落ちてしまい、その瞬間思わず「ひゃっこい！」と叫んでしまったのを聞かれていたのだとか。